

ESA ディスク I/O 使用率の統計情報の概要

内容

[概要](#)

[ディスクI/O使用率](#)

[統計情報の表示](#)

[ディスクI/O使用率ゲージ](#)

[使用中のディスクI/O使用率の統計情報](#)

概要

このドキュメントでは、Cisco Eメールセキュリティアプライアンス(ESA)でのAsyncOSのディスクI/O使用率の統計情報の意味について説明します。

ディスクI/O使用率

このセクションでは、ESAのディスクI/O使用率の統計情報の概要を説明します。

統計情報の表示

ディスクI/O使用率の統計情報は、GUIとCLIの両方からESAでアクセスできます。

- ESA GUIからディスクI/O使用率の統計情報を表示するには、[Monitor] > [System Overview]に移動します。
- CLIを使用して統計情報を表示するには、status detailコマンドを入力します。

ディスクI/O使用率ゲージ

ディスクI/O使用率ゲージは、前回のレポート以降にシステムで確認された使用率のパーセンテージです。このゲージは、既知の値のスケールに対する測定値を表示しません。むしろ、システムがこれまでに認識したI/O使用率を表示し、最後のレポート以降の最大値に対して拡張します。したがって、ゲージに100%と表示されている場合、システムはブート以降に見られる最高レベルのI/O使用率を経験します（これは必ずしもシステム全体の物理ディスクI/Oの100%を表しているとは限りません）。

最近ブートしたばかりで高負荷が発生するシステムでは、スケーリングアルゴリズムが最大を調整するため、ディスクI/O使用率ゲージが100%以上に達する可能性があります。長期的に見ると、ディスクI/O使用率は滑らかになりがちですが、システムのピークが珍しく、平均的なディスクI/O使用率の統計情報が低下する傾向があるため、100%を大幅に下回る傾向があります。

使用中のディスクI/O使用率の統計情報

システムがリソース節約モードにならない限り、これらの統計情報は無視しても問題ありません。ディスクI/O使用率が長期間にわたって100%または100%に近い状態で実行されている場合は、次のいずれかの可能性が示されます。

- I/Oサブシステムを限界まで駆動している。
- 非常に安定した負荷を持ち、あまり変化しません。

どちらの可能性が発生するかを判断するには、システムを監視して、リソース節約モードに入ったかどうかを確認します。これは、メッセージを受信するとすぐに処理して配信できないことを示します。

注：帯域幅制限のI/Oサブシステム以外にも、リソース節約モードに入る理由があります。